

平成30年度 琉球大学2次試験前期日程(数学問題)

理・工・医・農・教育学部 平成30年2月25日

- 理・工・医・教育[数学]学部 [1] [2] [3] [4] 数I・II・III・A・B (120分)
- 農・教育(学校教育[教育実践学・技術・特別支援], 生涯教育[自然環境科学])
学部 [5] [6] 数I・II・A・B (60分)

[1] a を正の実数とする. 関数 $f(x) = -x^2 + 4x$ と $g(x) = 2|x - a|$ について, 次の問いに答えよ.

- (1) $y = f(x)$ のグラフと $y = g(x)$ のグラフの共有点が1点となるような a の値を求めよ.
- (2) (1) で求めた a の値のときに, $y = f(x)$ のグラフ, $y = g(x)$ のグラフおよび x 軸で囲まれた部分の面積を求めよ.
- (3) $y = f(x)$ のグラフと $y = g(x)$ のグラフが異なる2点で交わるような a の値の範囲と, 2つの交点の x 座標を求めよ.

[2] $n = 1, 2, 3, \dots$ に対して, $a_n = n^2 + n + 1$ とおく. さらに, 実数 x_n, y_n を

$$(a_1 + i)(a_2 + i)(a_3 + i) \cdots (a_n + i) = x_n + y_n i \quad (n = 1, 2, 3, \dots)$$

によって定める. ただし i は虚数単位とする. 次の問いに答えよ.

- (1) x_2, y_2 および x_3, y_3 を求めよ.
- (2) 自然数 n に対して, $\frac{y_n}{x_n} = \frac{n}{n+2}$ が成り立つことを示せ.

[3] 関数 $y = e^{\sin x + \cos x}$ ($-\pi \leq x \leq \pi$) の増減, 極値, 凹凸を調べ, そのグラフをかけ.

[4] 2つの箱 A, B があり, どちらの箱にも赤玉と白玉が1個ずつ入っている. それぞれの箱から, 無作為に玉を1個取り出し, 取り出した玉を交換して箱に戻す操作を繰り返す. n 回の操作の後, 箱 A, B のどちらにも赤玉, 白玉が1個ずつ入っている確率を p_n とする. 次の問いに答えよ.

- (1) p_1, p_2 を求めよ.
- (2) p_n を用いて p_{n+1} を表せ.
- (3) 自然数 n に対して, p_n を求めよ.

5 次の問いに答えよ.

- (1) 今日は日曜日で, 10 日後は水曜日である. 100 日後および 100 万日後はそれぞれ何曜日か, 理由とともに答えよ.
- (2) x の方程式 $\log_2(x-1) - \log_{\frac{1}{2}}(x-4) = 1$ を解け.
- (3) 三角形 OAB で, 辺 OA を 2:1 に内分する点を L, 辺 OB の中点を M, 辺 AB を 2:3 に内分する点を N とする. 線分 LM と ON の交点を P とする. $\vec{a} = \vec{OA}$, $\vec{b} = \vec{OB}$ とするとき, \vec{ON} と \vec{OP} を \vec{a} , \vec{b} を用いて表せ.

6 関数 $f(x) = x|x-3|$ ($0 \leq x \leq 4$) について, 次の問いに答えよ.

- (1) $y = f(x)$ のグラフをかけ.
- (2) 微分係数 $f'(2)$ の値を求めよ.
- (3) 定積分 $\int_0^4 f(x) dx$ の値を求めよ.

解答例

- 1 (1) $a > 0$ より, $y = f(x)$ と $y = g(x)$ の共有点が1点となるのは, 2次方程式

$$-x^2 + 4x = -2(x - a)$$

$$\text{すなわち } x^2 - 6x + 2a = 0$$

が重解をもつときであるから, 係数について

$$D/4 = (-3)^2 - 1 \cdot 2a = 0$$

$$\text{これを解いて } a = \frac{9}{2}$$

- (2) 求める面積を S とすると

$$\begin{aligned} S &= \frac{1}{2} \left(\frac{9}{2} - 3 \right) \cdot 3 - \int_3^4 (-x^2 + 4x) dx \\ &= \frac{9}{4} - \left[-\frac{x^3}{3} + 2x^2 \right]_3^4 = \frac{7}{12} \end{aligned}$$

- (3) (1) の図から, $y = f(x)$ のグラフと $y = g(x)$ のグラフが異なる2点で交わるような a の値の範囲は

$$0 < a < \frac{9}{2}$$

また, そのときの交点の座標は

$$(i) 0 < a \leq 4 \text{ のとき } -x^2 + 4x = 2|x - a|$$

$$(x^2 - 6x + 2a)(x^2 - 2x - 2a) = 0$$

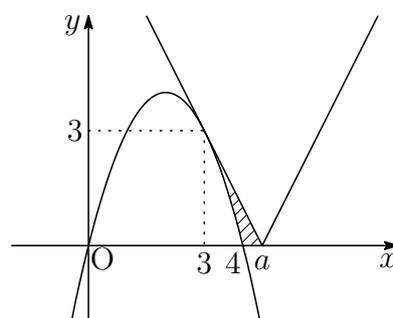
$0 < x \leq 4$ に注意して, これを解くと

$$x = 3 - \sqrt{9 - 2a}, 1 + \sqrt{1 + 2a}$$

- (ii) $4 < a < \frac{9}{2}$ のとき

$$-x^2 + 4x = -2x + 2a$$

$$\text{これを解くと } x = 3 \pm \sqrt{9 - 2a}$$



2 (1) $a_n = n^2 + n + 1$ より, $a_1 = 3, a_2 = 7, a_3 = 13$ であるから, 定義式より

$$x_2 + y_2i = (a_1 + i)(a_2 + i) = (3 + i)(7 + i) = 20 + 10i,$$

$$\begin{aligned} x_3 + y_3i &= (a_1 + i)(a_2 + i)(a_3 + i) \\ &= (20 + 10i)(13 + i) = 250 + 150i \end{aligned}$$

よって $x_2 = 20, y_2 = 10, x_3 = 250, y_3 = 150$

$$(2) \quad \frac{y_n}{x_n} = \frac{n}{n+2} \quad \dots (A)$$

$$[1] \quad n = 1 \text{ のとき } x_1 + y_1i = a_1 + i = 3 + i$$

$x_1 = 3, y_1 = 1$ であるから, (A) は成立する.

$$[2] \quad n = k \text{ のとき, (A) が成立すると仮定すると}$$

$$\begin{aligned} x_{k+1} + y_{k+1}i &= (a_{k+1} + i)(x_k + y_ki) \\ &= (a_{k+1}x_k - y_k) + (x_k + a_{k+1}y_k)i \end{aligned}$$

$x_{k+1} = a_{k+1}x_k - y_k, y_{k+1} = x_k + a_{k+1}y_k$ であるから

$$\begin{aligned} \frac{y_{k+1}}{x_{k+1}} &= \frac{x_k + a_{k+1}y_k}{a_{k+1}x_k - y_k} = \frac{1 + a_{k+1} \cdot \frac{y_k}{x_k}}{a_{k+1} - \frac{y_k}{x_k}} \\ &= \frac{1 + (k^2 + 3k + 3) \cdot \frac{k}{k+2}}{k^2 + 3k + 3 - \frac{k}{k+2}} = \frac{k+2 + (k^2 + 3k + 3)k}{(k+2)(k^2 + 3k + 3) - k} \\ &= \frac{k^3 + 3k^2 + 4k + 2}{k^3 + 5k^2 + 8k + 6} = \frac{(k+1)(k^2 + 2k + 2)}{(k+3)(k^2 + 2k + 2)} = \frac{k+1}{k+3} \end{aligned}$$

よって, $n = k + 1$ のときも (A) は成立する.

[1], [2] より, すべての自然数 n について, (A) は成立する. ■

3 $t = \sin x + \cos x = \sqrt{2} \sin\left(x + \frac{\pi}{4}\right)$, $t' = \frac{dt}{dx}$, $t'' = \frac{d^2t}{dx^2}$ とおくと, $y = e^t$ より

$$\frac{dy}{dx} = t'e^t, \quad \frac{d^2y}{dx^2} = \{t'' + (t')^2\}e^t$$

このとき $t' = \sqrt{2} \cos\left(x + \frac{\pi}{4}\right)$, $t'' = -\sqrt{2} \sin\left(x + \frac{\pi}{4}\right)$

したがって $t'' = -t$, $(t')^2 = 2 - t^2$

ゆえに $t'' + (t')^2 = -t + 2 - t^2 = -(t+2)(t-1)$ ($-\sqrt{2} \leq t \leq \sqrt{2}$)

$\frac{dy}{dx}$, $\frac{d^2y}{dx^2}$ の符号は, それぞれ t' , $-(t-1)$ の符号と一致する.

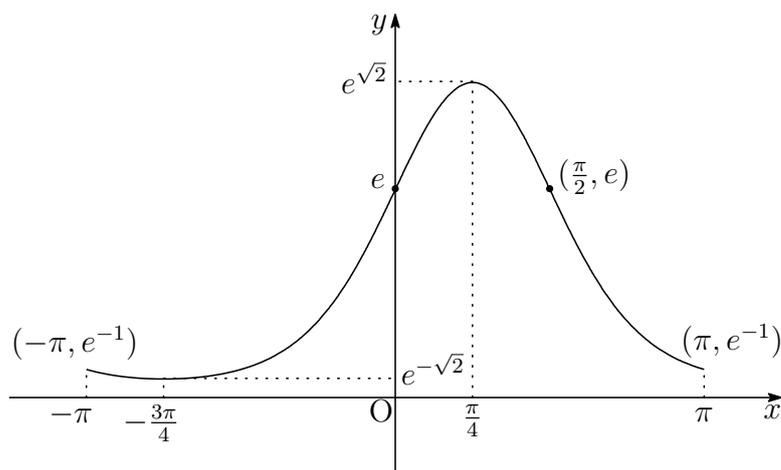
したがって, $y = e^{\sin x + \cos x}$ の増減・凹凸は次のようになる.

x	$-\pi$	\dots	$-\frac{3\pi}{4}$	\dots	0	\dots	$\frac{\pi}{4}$	\dots	$\frac{\pi}{2}$	\dots	π
$\frac{dy}{dx}$			$-$	0	$+$	$+$	$+$	0	$-$	$-$	$-$
$\frac{d^2y}{dx^2}$			$+$	$+$	$+$	0	$-$	$-$	$-$	0	$+$
y	e^{-1}	\searrow	$e^{-\sqrt{2}}$	\nearrow	e	\nearrow	$e^{\sqrt{2}}$	\searrow	e	\searrow	e^{-1}

よって 極小値 $f\left(-\frac{3\pi}{4}\right) = e^{-\sqrt{2}}$, 極大値 $f\left(\frac{\pi}{4}\right) = e^{\sqrt{2}}$

変曲点は $(0, e)$, $\left(\frac{\pi}{2}, e\right)$

以上の結果から, グラフの概形は次のようになる.



補足 $t = \sin x + \cos x$ ($-\pi \leq x \leq \pi$) が $x = -\frac{3\pi}{4}$, $\frac{\pi}{4}$ でそれぞれ極小, 極大となるから, $y = e^{\sin x + \cos x}$ も $x = -\frac{3\pi}{4}$, $\frac{\pi}{4}$ でそれぞれ極小値, 極大値をとる.
これを元にグラフの増減・凹凸を考えるとよい. ■

- 4 (1) 箱 A に違う色の玉が入っているとき、1回の操作の後、箱 A に違う色の玉が入る確率は、A, B 両方の箱から同じ色の玉を交換する確率であるから

$$\left(\frac{1}{2}\right)^2 + \left(\frac{1}{2}\right)^2 = \frac{1}{2}$$

箱 A に違う色の玉が入っているとき、1回の操作の後、箱 A に同じ色の玉が入る確率は、この余事象の確率であるから

$$1 - \frac{1}{2} = \frac{1}{2}$$

また、箱 A に同じ色の玉が入っているとき、1回の操作の後には箱 A に違う色の玉が入る。

p_n は n 回の操作の後、箱 A に違う色の玉が入っている確率と考えてもよい。また、 n 回の操作の後、箱 A に同じ色の玉が入っている確率を q_n とすると、次の確率漸化式が成立する。

$$p_1 = \frac{1}{2}, \quad q_1 = \frac{1}{2}, \quad (*) \begin{cases} p_{n+1} = \frac{1}{2}p_n + q_n \\ q_{n+1} = \frac{1}{2}p_n \end{cases}$$

$$\text{よって} \quad p_2 = \frac{1}{2}p_1 + q_1 = \frac{1}{2} \cdot \frac{1}{2} + \frac{1}{2} = \frac{3}{4}$$

- (2) $p_n + q_n = 1$ であるから、これと (*) の第 1 式から q_n を消去すると

$$p_{n+1} = \frac{1}{2}p_n + (1 - p_n) \quad \text{よって} \quad p_{n+1} = -\frac{1}{2}p_n + 1$$

- (3) (1), (2) の結果から $p_1 = \frac{1}{2}$, $p_{n+1} = -\frac{1}{2}p_n + 1$ ($n = 1, 2, 3, \dots$)

$$\text{したがって} \quad p_{n+1} - \frac{2}{3} = -\frac{1}{2} \left(p_n - \frac{2}{3} \right)$$

数列 $\left\{ p_n - \frac{2}{3} \right\}$ は、初項 $p_1 - \frac{2}{3} = -\frac{1}{6}$ 、公比 $-\frac{1}{2}$ の等比数列であるから

$$p_n - \frac{2}{3} = -\frac{1}{6} \left(-\frac{1}{2} \right)^{n-1} \quad \text{よって} \quad p_n = \frac{2}{3} + \frac{1}{3} \left(-\frac{1}{2} \right)^n$$



- 5 (1) 整数を7で割った余りと曜日を次のように対応できる。

0	1	2	3	4	5	6
日	月	火	水	木	金	土

したがって $100 \equiv 2 \pmod{7}$
 $100^3 \equiv 2^3 \equiv 1 \pmod{7}$

よって、100日後は 火曜日、100万日後は 月曜日

- (2) 真数は正であるから

$$x - 1 > 0 \text{ かつ } x - 4 > 0 \text{ すなわち } x > 4 \quad \cdots \textcircled{1}$$

$$\log_{\frac{1}{2}}(x - 4) = \frac{\log_2(x - 4)}{\log_2 \frac{1}{2}} = -\log_2(x - 4) \text{ より, 与えられた方程式は}$$

$$\log_2(x - 1) + \log_2(x - 4) = 1$$

$$\log_2(x - 1)(x - 4) = \log_2 2$$

したがって $(x - 1)(x - 4) = 2$ ゆえに $x^2 - 5x + 2 = 0$

①に注意して、これを解くと $x = \frac{5 + \sqrt{17}}{2}$

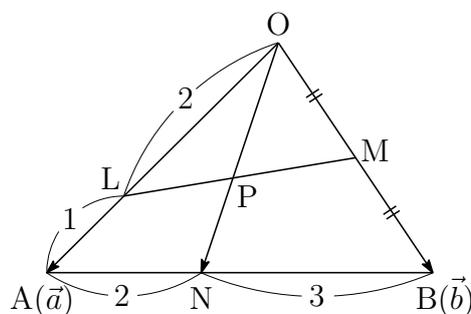
- (3) 点Nは辺ABを2:3に内分する点であるから

$$\vec{ON} = \frac{3\vec{a} + 2\vec{b}}{5}$$

$\vec{a} = \frac{3}{2}\vec{OL}$, $\vec{b} = 2\vec{OM}$ を上式に代入すると

$$\begin{aligned} \vec{ON} &= \frac{3 \cdot \frac{3}{2}\vec{OL} + 2 \cdot 2\vec{OM}}{5} \\ &= \frac{17}{10} \cdot \frac{9\vec{OL} + 8\vec{OM}}{17} = \frac{17}{10}\vec{OP} \end{aligned}$$

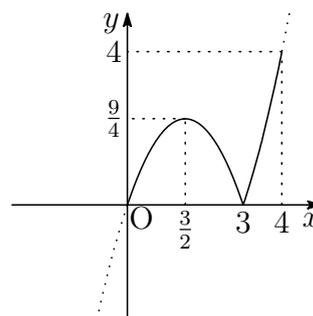
よって $\vec{OP} = \frac{10}{17}\vec{ON} = \frac{10}{17} \cdot \frac{3\vec{a} + 2\vec{b}}{5} = \frac{6\vec{a} + 4\vec{b}}{17}$ ■



6 (1) $f(x) = x|x-3|$ ($0 \leq x \leq 4$) より

$$f(x) = \begin{cases} -x(x-3) & (0 \leq x \leq 3) \\ x(x-3) & (3 \leq x \leq 4) \end{cases}$$

$-x(x-3) = -\left(x - \frac{3}{2}\right)^2 + \frac{9}{4}$ より, $y = f(x)$
のグラフは, 右の図のようになる.



(2) $0 \leq x \leq 3$ において, $f(x) = -x^2 + 3x$ より

$$f'(x) = -2x + 3 \quad \text{よって} \quad f'(2) = -1$$

(3) (1) で示したグラフから

$$\begin{aligned} \int_0^4 f(x) dx &= \int_0^3 (-x^2 + 3x) dx + \int_3^4 (x^2 - 3x) dx \\ &= \left[-\frac{x^3}{3} + \frac{3}{2}x^2 \right]_0^3 + \left[\frac{x^3}{3} - \frac{3}{2}x^2 \right]_3^4 = \frac{19}{3} \end{aligned}$$

■